



文責 校長 山本 智文

## 〇〇〇〇もエラーをする！

〇〇〇〇のヒント ➡ 野球選手！

教室は、「自分の考えを自由に述べ合い、互いに自分を高め合う場所」です。

しかし、答えをまちがえることに不安を覚えたり、「正解を答えなくてはならない」と無意識のうちに考えていたりする子どもたちは少なくはありません。「**正解のみが良いこと**」で、「**まちがえることは悪いこと、恥ずかしいこと**」と強く感じている子どもたちがいるのです（これは、長年の私の経験から感じてきたことです）。まちがいを恐れていると、発表も少なくなるだろうし、自由な意見も出にくくなってしまいます。それでは、「**お互いに高め合う**」ことはできないでしょう…。

### I まちがえた瞬間がポイント

高学年になると、周りの視線を必要以上に気にしたり、人前で話すことを「**恥ずかしい**」と感じたりする子どもがいます（私もそうだったように記憶しています）。それは「**前思春期の子ども**」の発達段階から考えると当然なことと思います。成長するにつれて、しだいに人前で話すことに**恥ずかしさ**を覚える子どもたちが**まちがえた答えを発表した時には、そのフォローがとても大切になってきます**。本人は、「**しまった!**」と思っています。その時、「**そこへの教師の言葉がけ**」がポイントになります。「**子どもの気持ちをなえさせてしまうか**」、それとも、「**ほっとさせることができるかどうか**」ということなのです。

### II まちがいを目立たなくする

#### (1) 「ファイナルアンサー？」

答えた瞬間、教室の雰囲気でもちがえたことが分かることがあります。小さなまちがいで、ショックを受けやすい子どももいるでしょう。その時には、「クイズ番組の名セリフ」でフォローをします。

「ファイナルアンサー？」

この時、「**言い方**」にも工夫をこらしたいものです。「これは、もう一度考えた方がよさそうだぞ!」という雰囲気を漂わせるのです。ピンチの時は、「オーディエンス（聴衆）」「ライフライン（生命線）」等と、「**聞くべき方法**」をもつように普段から約束事を決めておくのです。そこで、うまく修正できればよし。そのまままちがえたとしても、「クイズ感覚」にしたことで、ダメージは軽くなるでしょう。

#### (2) 「教室はまちがえるところ!」「ぼくがお手本ですよ!」

私は、ちょっとしたミスをよくしていました。時には、子どもから「山本先生、ちがいますよ!」と指摘されることもありました。そんな時は、「**教えてくれてありがとね。**」「**気が付いて良かったね。**」等と言うようにしていました。そして、「**まちがえたまま覚えたら、大変だもんね。**」「**大人の先生にもまちがいはあります。子どものみんななら、もっともっとたくさんまちがいがあるのは当然でしょう!**」と付け加えます。そして、「**まちがえることは恥ずかしいことではない。むしろ、まちがえたことをそのままほったらかしている方が恥ずかしいことなのです。ちゃんと理解できればそれで良いのです。**」と締めくくりました。

👉 続きは、1月号で!

## 小中合同防災訓練～自分の命は自分で守るために～

11月5日(火)に、安芸灘を震源とする地震・津波を想定した第2回目の「**小中合同防災訓練**」を実施しました。まず、各小中学校において避難訓練を行い、その後、蒲刈中学校の体育館に全校児童で移動しました。

体育館では、地域・保護者の方々の参加のもと、訓練のねらいを「避難所での生活を行う際に必要な知識や方法、役に立つことなどを知る。」と設定し、呉市総務部危機管理課から3名の講師の方々をお招きし、講習会「**災害から身を守るための心構え**」について学ばせていただきました。その後、小中学校の児童生徒が分かれて「**実技講習会**」にのぞみました。小学生は「**段ボールベッドの製作**」を、中学生は「**間仕切りテントの設営**」にチャレンジしました。



子どもたちは、学年を超えて協力しながらダンボールベッドの完成を目指しました。完成した時、「作ってみてどうだった？」と聞いたところ、「**紙でできているベッドだからすぐにこわれてしまふんじゃないかと思ったけど、寝てみるととてもがんばりようでした。たくさんのってもびくともしませんでした。びっくりしました。**」との感想が返ってきました。この時、「やっぱり、実際に作らせたり、体験させたりすることが大切なんだなあ。」と改めて痛感させられました。

児童生徒が一体となって防災訓練を行うことで、災害時の避難方法や対処の仕方、避難所での生活に必要な知識等について学びを深めることができます。また、今回の合同防災訓練やこれまでの避難訓練等の学びを通して「**自分の命は自分で守る!**」という自助の意識が高まっていることを実感しているところです。次年度は、今年度同様、地域・保護者の方々を巻き込んだ合同防災訓練を企画していきます。すでに、内容について検討を開始しました。地域に生きる子どもたちの健やかなる成長のために、今後とも、ご理解とご協力のほどお願いいたします。

## 令和6年度 蒲刈小学校学習発表会 大成功!



11月16日(土)に「令和6年度蒲刈小学校学習発表会」を開催しました。

今年度の蒲刈小学校児童会のスローガン「**みんなが 主役!!**」のもと、子どもたちは自分たちの「**一生懸命に表現する姿**」を観客の皆さんに観てもらおうと一日一日を大切に練習を積み上げていきました。毎日毎日、「本番の自分たちの姿」を意識し、仲間と力を合わせて、一人一人一生懸命に練習と向き合っている姿は、「**とても美しい**」と感じました。皆様の目には、子どもたちの姿はどのように映りましたでしょうか?

1・2年生は「**サラダで元気**」を、3・4年生は「**ごんぎつね**」を、5・6年生は「**狂言『竹取物語』**」を披露しました。また、全校児童による「**和太鼓演奏**」、「**合唱・斉唱**」も聴いていただきました。子どもたちは、多くの来賓・地域・保護者の方々に自分たちの演技を観ていただくことで、「よしっ、成功させるぞ!」という力をいただき、学年の一体感を生み出すことができました。

今年度も、多くの方々にご観覧いただき、子どもたちは、これまでの練習の成果を十二分に発揮することができました。蒲刈小学校教職員一同、心より大変感謝申し上げます。ありがとうございました。

この学習発表会を通して子どもたちは、「**友達と気持ちを合わせる**こと」、「**心を一つにして取り組む**こと」、「**一生懸命に演じきる**こと」の大切さを学びました。そして、「令和6年度の学習発表会」をみんなで創り上げ、演じきった達成感、成就感を味わうことができました。この経験が、これからの生活や学習等の意欲に必ずやつながっていくものと確信しています。



1・2年生  
「サラダで元気」



3・4年生  
「こんぎつね」



全児童  
「蒲小太鼓」



5・6年生  
「狂言『竹取物語』」



全児童  
「合唱『未来につなげ』『ふるさと』」  
「斉唱『校歌』」

私は、「**子どもたちはさまざまな行事を通して、一回りも二回りも大きく成長していく**」と考えています。そこには、「子どもたち一人一人の自己評価」や「子どもたちの相互評価」、それに「指導者からの評価」、「保護者や地域の方々からの評価」が幾重にも重なっていくことで、「**成長の歩み**」を進めていくものと考えています。

## 「秋の茶会」に全校児童で参加しました！

11月9日（土），下蒲刈町の「松濤園」で開催された「秋の茶会」に全校児童で参加しました。

毎年，松濤園では「春の茶会」と「秋の茶会」が開催され多くの来賓や地域，観光客の方々をお茶菓子とお抹茶でおもてなしをしています。今年度も本校では，子どもたちにふるさとの伝統文化にふれさせたり，地域に生きる人々の生き方等に出会わせたりすることで，**「ふるさとの良さやその価値に気付かせ，自分たちの生き方につなげていく学び」**を展開しています。

6月から公益財団法人 蘭島文化振興財団の担当者の方と秋の茶会参加に向けて準備をしてきました。当日は，晴天に恵まれ，心地よい日差しの下，貴重な時間を過ごすことができました。子どもたちは，「お茶を点（た）てる音」「お湯の沸いている音」「抹茶の香り」「お軸や茶器道具」「部屋のしつらえ」等，日常ではなかなかできない体験をすることができました。この企画を通して，**「本物に出会わせる」**ことの大切さを再認識したところです。

子どもたちをこの企画に参加させるために土曜日を登校日にさせていただきましたが，保護者の皆様方には，ご理解・ご協力をいただきまして心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



「松濤園」入口にて“ハイ，チーズ”



「五番所」内にて～5・6年生～



「五番所」の庭にてお茶菓子とお抹茶をいただく1～4年生



2学期も残りわずかとなってきました。今後も，我々蒲刈小学校の教職員は，**「子どもの姿で勝負」**していきます。そのために，本校教育の質的向上に向け，**“蒲刈小学校だからできる教育活動”**をさまざまに企画し展開してまいります。引き続き，蒲刈小学校にご支援たまわりますようお願い申し上げます。蒲小だより12月号の締めくくりの言葉といたします。